

<b>研究課題名</b>	<b>妊娠糖尿病患者における産後早期耐糖能異常を予測する因子に関する検討</b>
<b>研究の意義・目的</b>	<p>この研究の目的は、妊娠糖尿病（GDM）と診断された妊婦さんが、出産後 12 週間に受ける 75gOGTT という検査の結果が、産後の血糖値の異常を予測できるかどうかを調べることです。具体的には、妊娠中に GDM と診断された妊婦さんを対象に、出産後 12 週間に 75gOGTT を実施し、その結果をもとに、血糖値が正常な人と異常がある人に分け、それぞれのグループの妊娠や出産に関する問題や赤ちゃんの健康状態を比較します。また、妊娠中に行った 75gOGTT の結果やインスリンの分泌状態などが産後の血糖にどのように影響するかを明らかにすることを目的としています。この研究の結果は、GDM と診断された妊婦さんにおいて、産後の血糖異常がどのように予測できるかを明らかにすることが期待されます。妊娠中の 75gOGTT の結果やインスリンの分泌状態が産後の血糖にどう影響するかを調べることで、産後に糖尿病が発症するのを早期に発見し、予防する方法を見つける手助けになります。特に、GDM を経験した女性は、将来的に 2 型糖尿病を発症するリスクが高いとされています。この研究が進むことで、産後の糖尿病予防のために早期に対応できるようになるかもしれません。また、出産後 12 週という比較的早い段階で血糖のチェックを行うことで、妊婦さんのその後の健康管理に役立つ重要な指針になると考えられます。この研究を通じて、GDM を経験した女性の長期的な健康改善や糖尿病やその関連する病気を予防するための方法が見つかることが期待されます。</p>
<b>研究を行う期間</b>	機関の長の実施許可日 ~ 2026 年 12 月 31 日
<b>研究協力を お願いしたい方 (対象者)</b>	2018 年 1 月~2024 年 3 月に大阪公立大学医学部附属病院女性診療科で分娩となった方が対象となります。
<b>協力をお願いしたい 内容と研究に使わせて いただく試料・情報 等の項目</b>	<p>診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・患者基本情報：年齢、性別、診断名、病歴、妊娠回数、出産回数</li><li>・身体所見：身長、妊娠前体重、分娩時体重、妊娠中体重増加</li><li>・周産期事象：分娩方法、分娩週数、児の性別、出生体重、身長、頭囲、胸囲、Apgar score、臍帯動脈血液ガス</li><li>・75gOGTT によって得られた血糖値及びインスリン値及び各パラメーターによって得られる HOMA-<math>\beta</math>、インスリン分泌能</li></ul>
<b>試料・情報を 利用する者の範囲 および管理について 責任を有する者の 研究機関の名称</b>	<p>この研究は、公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院医学研究科女性生涯医学のみで行います。</p> <p>【研究責任者】三枝卓也</p>
<b>本研究の 利益相反</b>	利益相反の状況については研究者等が利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
<b>研究に協力を したくない場合</b>	診療情報が当該研究に用いられることについてご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも不利益を受けることはありません。未成年者の方では、保護者さま等からの研究不参加のお申し出や

	<u>お問い合わせに対してもご対応いたします。</u>
連絡先	大阪公立大学医学部附属病院 女性診療科 担当者氏名：三枝 卓也 電話番号：(06) 6645-3862 メールアドレス：t-misugi@omu.ac.jp